

科目名	空海の思想入門B			学期	前期	単位数	2	担当者	櫻木潤
副題	弘法大師空海の生涯								
ナンバリング	G1-01-248	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	2

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。したがって、弘法大師空海の生涯を知ることは、本学での学びの基礎となる。

本授業では、歴史学の立場から弘法大師空海の生涯をたどり、その歴史的意義を理解するとともに、その思想がどのような歴史的背景によって生成されてきたのかを考察できる視点を養うことを目指す。

授業の到達目標

- ①弘法大師空海の生涯を知り、その歴史的意義を理解する。
- ②弘法大師空海の世界における歴史的背景を考察することができる。
- ③弘法大師空海の生涯を学ぶことを通して、現代の諸課題に対応できる洞察力を身につける。

授業計画

1. 空海が活躍した時代－奈良・平安時代の社会と仏教－
2. 讃岐での少年時代－誕生と佐伯直－
3. 青年時代の環境－おじ阿刀大足と桓武ファミリーとの交流－
4. 山林修行と『鸕鷀指帰』の撰述－「沙門空海」の誕生－
5. 唐代密教の隆盛－不空三蔵と恵果阿闍梨－
6. 長安の日々－留学僧として－
7. 密教の宣揚にむけて－帰国後の「韜黙」－
8. 伝教大師最澄との交流－「平安仏教」の成立－
9. 高野山の開創－密教の宣揚－
10. 天皇・太上天皇との交流－真言密教による護国－
11. 満濃池と綜芸種智院－真言密教による衆生救済－
12. 真言宗の成立－次代への継承－
13. 空海以後の密教－日本仏教の密教化－
14. 「弘法大師」の誕生－入定留身信仰とその背景－
15. 弘法大師空海の生涯と現代－現代社会と弘法大師空海の生涯－

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べておくこと（90分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60分）

テキスト

授業時に配布するプリントによって授業を進める。

参考書・参考資料等

- ①渡辺照宏・宮坂有勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993年）
- ②高木神元『空海 還源への歩み』（春秋社、2019年）
- ③吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、講談社、2018年）

その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 弘法大師空海の生涯について説明できる。
- (B) 弘法大師空海の生涯について、時代背景を理解したうえで説明できる。
- (A) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義を説明できる。
- (S) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義をふまえ、思想形成の背景について考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の授業において、弘法大師空海ゆかりの地などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、さらに理解を深めていただきたい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）